

**令和6年度能登半島地震復旧事業
能登町立松波小学校新築基本設計業務委託プロポーザルについて**

【審査講評】

1 審査概要

本事業のプロポーザルでは、各分野を代表する5名の審査委員（以下「委員」という。）による審査委員会（以下「委員会」という。）により、実施要項を策定の上、一次審査及び二次審査を行い、慎重かつ厳正に審査した。

2 選定結果

委員会が選定した最適候補者等は以下のとおりである。

最適候補者	アトリエ・アンド・アイ+AE5partners+マツハ設備設計研究所共同設計体 ※構成員 ・株式会社アトリエ・アンド・アイ ・株式会社 AE5partners ・有限会社マツハ設備設計研究所
候補者（次点）	コンマ+能登デザイン室+利光収建築設計 設計共同体 ※構成員 ・一級建築士事務所 comma ・一級建築士事務所能登デザイン室 ・株式会社利光収建築設計

3 審査経過

(1) 第1回審査委員会

日程：令和6年8月13日（火）から15日（木）

場所：オンライン会議・通信審議

内容：委員長を選出、募集要領における参加資格要件・実施要領等の協議

(2) 第2回審査委員会（一次審査）

日程：令和6年10月3日（木）

場所：金沢工業大学（石川県野々市市）

概要：二次審査対象者の選定等

始めに、事務局より実施要項に記載の参加資格を有すること及び基礎評価について、事務局より報告した。

次に、審査の第一段階として提案書等をもとに各委員が10票程度ずつ予備投票を行い、

二次審査対象者の選定に向けた議論の対象者を選定した。【表1】

第二段階として、第一段階における予備投票の結果、投票数の少ない者から順番に各委員が提案書等に対する印象・専門的知見からの講評を交えた意見交換を行い、二次審査対象者の選定に向けた対象者を選定した。

第三段階として、第二段階で選定した者について各委員で再度内容等について議論し、二次審査対象者として5者を選定した。

【表1】一次審査 予備帳票結果

投票数	対象者数	審査 No.
5票	2者	4※・9※
4票	2者	7※・19※
3票	5者	14・15・16・17・18※
2票	6者	2・3・5・6・8・11
1票	2者	10・13
0票	2者	1・12
計	19者	

注) ※は二次審査対象者

(3) 第3回審査委員会（二次審査）

日程：令和6年10月27日（日）

場所：能登町立松波小学校仮設体育館（石川県能登町）

概要：最適候補者等の選定

実施体制及び提案書について、一者当たり15分の公開プレゼンテーションを5者続けて行った。続けて5者一斉に90分の公開ヒアリングを行った。ヒアリング終了後、提案書並びにプレゼンテーション及びヒアリングなどを踏まえ、非公開にて審議を行った。

審議では、提案書、プレゼンテーション及びヒアリングを基に、各委員が専門的知見に基づき、総合的に評価し、各者の作り出すバリューや課題などについて議論し、委員会の総意として、最適候補者をアトリエ・アンド・アイ+AE5partners+マツハ設備設計研究所共同設計体に選定した。以降、候補者（次点）にコンマ+能登デザイン室+利光収建築設計共同体を選定した。

4 講評

(1) 全体講評

令和6年能登半島地震によって甚大な被害を受け使用不能となった能登町立松波小学校の校舎をいち早く立て直し、災害によって大きく欠損することとなった子どもたちの教育環境を整える本事業に対して提出された19者の提案は、どれも熟慮された提案であり、多くの時間と労力をかけて、応募の労を取って頂いた方々に感謝の意を表したい。

二次審査に残った5者の提案は、地域の豊かな環境を最大限生かしたものでありながら、新たな学びの実現や地域における学校の在り方に対する課題に真摯に向き合った優れた提案であった。最終的には、「困難な状況の中においても時代が求める優れた学校施設として早期に復旧させること」を目指すにあたり、地域と十分に連携しながら実現する可能性に満ち、松波小学校の現状に適合した非常に説得力のある提案を行った アトリエ・アンド・アイ+AE5partners+マツハ設備設計研究所共同企業体を最適候補者に選定した。

最適候補者には、学校や地域など学校づくりに関係するすべての人が、自分たちが携わったから素晴らし学校ができたと言え学校づくりとなるよう、丁寧に本事業に取り組まれることを期待する。

(2) 個別講評

アトリエ・アンド・アイ+AE5partners+マツハ設備設計研究所共同企業体<最適候補者>

平屋で構成された中に教室を丁寧に配置した優れた提案で、児童数が減少している松波小学校の現状に合致した教育環境を実現できる可能性を感じさせる点が選ばれた大きな理由である。

南面に設けられた松波はらっぱについても、地域と学校の間をつなぐアイデアとして秀逸であるだけでなく、現実的であり、信頼性のある提案として評価された。また、ユニークな構造形式は今後精査が必要とは思われるが、子供達の学習空間に豊かさを与えるものとして受け取った。

コンマ+能登デザイン室+利光収建築設計共同体<候補者(次点)>

地域のことを深く読み込み、それを豊かな空間構成と教育プログラムとして表現したところは、多くの審査委員を感動させた。一方、子供達の教育空間が1階と2階で分離され、一体性を保ち難いのではないかと懸念、中庭に面する壁面が高く閉鎖的な雰囲気になるのではないかと等の懸念が提示され、僅差で次点に留まった。

(以下、発表順)

鈴木・谷重設計共同体

能登里山の構えを体現しようとした非常によく考えられた計画で、能登風土に対する深い理解とそこから導き出された豊かな空間性で高い評価を受けた提案であった。一方で、その魅力の源泉である解像度の高い設計を被災地で実現することに対する困難性、積雪時や降雨時に対する県道から昇降口が大きく引いている建物配置への懸念が指摘された。

濱田・中永・BANKnote 設計共同体

二階に教室を集中させ、一階にパブリックな機能を集めた明快な構成、建設コストを考えると、丁寧に精査された構造方式など多くの審査委員の評価を集めた。

一方で、二階の平面構成が複雑で、少人数の学校での展開において不安が残ること、シンプルな外構や鉄骨の構造が導き出す空間の質が、発災を受けながらも子供達の為の環境を地域に保持しようとする地域の人たちの思いをいかに受け止められるかという問題が指摘された。

NASCA・小坂・中西昭太設計共同企業体

体育館を中心に軒下広場が広がる魅力的な空間構成で、外部空間も豊かに考えられており、高い評価を受けた提案であった。

一方で、死角が多く安全確認がしにくい点や、大きなフットプリントや外壁面により復興の厳しい環境での実現に困難さが予想される点、また少ない生徒数に対して居場所が分散されすぎているのではないかといった点に対して懸念が示された。

5 プロポーザル概要

(1) 経過

令和6年8月 13日（火）～15日	第1回審査委員会	
令和6年8月16日	公告	
令和6年8月 28日～30日	現地施設	
令和6年9月26日	参加表明書（一次審査書類）提出 期限	19者提出
令和6年10月3日	第2回審査委員会	二次審査対象者の選定（5者）
令和6年10月4日	一次審査の結果通知	
令和6年10月24日	二次審査書類提出期限	
令和6年10月27日	第3回審査委員会	公開プレゼンテーション 公開ヒアリング 最適候補者等の選定

(2) 審査委員

区分	分野	氏名	所属・役職
委員長	建築	赤松 佳珠子	法政大学・教授
委員	建築	竹内 申一	金沢工業大学・教授
	都市・建築・災害	小野田 泰明	東北大学・教授
	教育	眞智 富子	能登町・教育長
	教育	宮本 秀人	能登町立松波小学校・校長